

オープニングイベント

# 古事記1300年 新たな物語りの始まり

平成 24 年 2 月 4 日 (土) 10 時～  
やまと郡山城ホール大ホール 他  
参加者数 1,000 名

阿礼踊りの披露 (平和地区子ども会のみなさん)  
トークショー「古事記を楽しむ」  
千田 稔さん (奈良県図書館情報館館長)  
松村 武さん (劇団カムカムミニキーナ主宰)  
尾川 賀栄さん (第 29 代元女王卑弥呼)  
上田 清 (大和郡山市長)  
石見神楽 (島根県浜田市大尾谷神楽社中)  
県内外ゆかりの地ブース出展  
(島根県浜田市・天理市・桜井市・田原本町)  
上田忠男 古事記コレクション展 (展示室にて)



1 月 13 日 (金)、オープニングイベントの開催まで約 3 週間を残して、参加申込みが定員をオーバー。その後は、せっかく申し込んでいただいてもお断りしなくてはならないという事態となりました。

2 月 4 日 (土)、満員となった会場のやまと郡山城ホール 大ホール。

9 時の開館とともにできた入場者の列は、ホール事務所の前まで・・という前代未聞の状況の中、10 時に開演となりました。

松村 武さん (劇団カムカムミニキーナ主宰・古事記 1300 年紀事業実行委員会特別顧問) の司会進行で始まったオープニングイベント。上田清大和郡山市長を呼び入れて、2 人の軽やかな会話が進みます。

市長「古事記にはいろんな知恵や知識が記されています。そんな古事記発祥の地であることを、地域の誇りとしたいです。」

松村さん「次に、阿礼祭で毎年踊られている阿礼踊りを紹介しましょう。僕の地元なんで、子どものころによく見ました。」

平和地区子ども会のみなさんによる踊り。

『阿礼さま音頭』

『阿礼さま祭り子供の歌』



30年の長きにわたり、子ども達の指導と太鼓を務めてこられた、花柳琴香さんに花束贈呈。

花柳さん「いつも子どもたちに元気をもらってきました」

かわいい子どもたちの踊りの後、松村さんと市長に加えて、千田 稔さん（県立図書館情報館館長・古事記1300年紀事業実行委員会特別顧問）、尾川 賀栄さん（第29代元女王卑弥呼）をお迎えして、トークショー開始。

千田さん「古事記は音読する（声に出して読む）と、わかりにくい文章も分かるようになってきます」

松村さん「古事記は演劇の要素を含んでいます。演劇で表現することがピッタリな物語です」

市長「1300年前を考えることは、1300年先を考えることにつながります。誇りを持つことは大切なこと。このことが郡山の底力となるはずですよ。」

尾川さん「もっと私のような若い人たちにも、古事記の楽しさを知ってもらいたいです。」

など、古事記初心者にも分かりやすく、古事記を楽しめる内容のお話が続きました。

さらに、9月9日に歌劇『古事記（ふることぶみ）』の上演を予定している、市民劇団「古事語り部座」が劇中の歌を披露。歌詞カードをお渡しして、会場のみなさんも一緒に参加。作曲者の「サキタハチメ」さんも駆けつけて、ご挨拶いただきました。

最後は、遠く島根県浜田市から来ていただいた石見神楽 大尾谷社中 20名のみなさんによる『石見神楽』の上演です。

稲田姫（または櫛名田姫）を狙う八岐大蛇（やまたのおろち）、それを退治する須佐之男命（すさのおのみこと）。

迫力満点の上演で会場が沸き上がり、幕を閉じました。

古事記初心者の方も、上級者の方も、古事記を楽しむことのできた1日。まさに、1300年紀の幕開けとなるイベントでした。

また、会場の外では、物産展を開催。天理市、桜井市、田原本町、島根県浜田市そして地元大和郡山の物産の販売や観光案内を行いました。



オープニングイベント

# 上田忠男 古事記コレクション展

～古事記の里 稗田に生まれ育った私の資材帳より～



平成 24 年 2 月 4 日 (土) ～ 6 日 (月)

9 時～18 時 ※6日は17時まで

やまと郡山城ホール 展示室

参加者数 1,300 名

オープニングイベントにあわせ、やまと郡山城ホールの展示室で開催した『上田忠男 古事記コレクション展』。地元稗田町に生まれ育った故・上田忠男さん（元北和診療所の医院長）が、生前、地元を盛り上げようと集められた作品のうち、主に、神話画や古事記写本の複製などをお借りして展示。部屋全体、神話の世界が広がる空間となりました。開催された3日間で約1300名の方が来場され、素晴らしい作品を堪能できました。

上田忠男コレクションは、絵画、書籍、考古資料など多分野にわたるコレクションです。1968年（昭和43）から二十数年間にわたって集められたもので、「私の資材帳」というノートに収集物が書き記されています。

収集の契機は、由緒ある稗田の地に関する資料がほとんど残されておらず、閑寂の風情漂う稗田の現状を嘆き、稗田阿礼や古事記、詮海和上に関する資料を保存し、資料館の建設など地域の活性化につなげるためでした。

今回の展覧会では、古事記の神話画を中心に、近年の卷子本や古事記の複製本を展示しました。

神話画は神々を描いたものが主体で、近代の日本画家の作品が多く（山田雙竹、国井応陽、野口郁子、猪飼嘯谷、小村大雲、岩佐古香など）、小杉未醒の「阿礼談古」は1930年（昭和5）の第1回阿礼祭で披露された画で、稗田の歴史と関係が深いものです。

本展開催にあたり、故上田忠男さんのご家族の皆様には貴重な資料をお貸しいただいたとともに、ご寄付をいただきました。あらためて感謝申し上げます。



## 第16回 こおりやま歴史フォーラム

平成 24 年 2 月 4 日 (土) 13 時～  
やまと郡山城ホール大ホール  
参加者数 700 名

「古事記を読む」をテーマに、千田稔奈良県立図書情報館長が「古事記に自然を読む」、辰巳和弘元同志社大学教授が「坂に立つ神と人—古代人の宇宙観—」と題して講演。古代人の植物、鳥、太陽、海などの自然に対する考え方、交通路の坂にみる常世と異界、神と人という境界意識に触れ、古事記を生んだ古代人のものの考え方、感じ方を探りました。

また、幕間にはやすきひろこさんが一人語り芝居「古事記より 阿礼の背中」を演じ、稗田阿礼の語りの世界に浸りました。



## 第8回 記憶力大会

平成 24 年 2 月 5 日 (日) 10 時～  
やまと郡山城ホール大ホール  
参加者数 228 名

稗田阿礼の記憶力にあやかって、「現在の阿礼を探せ」と平成 16 年から開催されています。例年の競技の部・自慢の部・記憶力日本選手権大会の 3 部門に、自慢の部に古事記の部（古事記本文、神話・神様の名前等を記憶）を新設。「天地のはじまりと神々の誕生」などを暗誦した 7 歳の安井湖桃さんが、阿礼賞（優勝）を獲得しました。



## 古事記関連ブックフェア

平成 24 年 1 月 5 日 (木) ～ 2 月 19 日 (日)  
市立図書館 1 階展示コーナー

古事記に関するさまざまな図書や絵本など、約 150 冊を展示しました。手にとって見る人、借りる人が徐々に増えているようでした。

やはり「古事記 1300 年紀」の広報効果があったようです。

